

(3) 骨材

新潟県

記事提供：(一社)新潟県砂利碎石協会

新潟県における平成30年度1月～3月期の骨材需給は、前年度同期と比較して、昨年とは逆に降雪量が少なかったことなどにより、県計では、出荷量で21%増、生産量で34%増となった。

地区別に前年度同期比で見ると、上越地区では、出荷量で13%増、生産量で47%増、中越地区は、出荷量が28%増、生産量で41%増、下越地区は、出荷量が15%増、生産量で24%増、佐渡地区は、出荷量で56%増、生産量で54%増となった。

平成30年度通期の累計では、上信越道4車線化舗装工事や一部地域における災害復旧工事等により、対前年比の出荷量は12%増、生産量は16%増となり、3月末の在庫量は1%増となった。

富山県

記事提供：富山県土石業協同組合連合会

富山県における平成30年度平成31年1月～3月期の骨材の需給は、前年同期に比べて、県全体では出荷量は8%増、生産量は7%増と、いずれも前年度を上まわった。また、前期（平成30年10月～12月期）比では、出荷量は25%減、生産量は26%減となった。

地区別の前年同期比では、東部地区は出荷量が10%増、生産量が2%減、西部地区においては出荷量が7%増、生産量が13%増となった。

これは、前年同期が大雪の影響で生産、出荷ともに大幅に落ち込んだが、今期は平年並みに戻ったことによるものである。

3月末在庫量は、前期末（平成30年度12月末）より、東部地区では14%減に、西部地区では13%増に、県全体では8%減となった。

なお、平成30年度通期では、前年度に比し年間出荷量は、東部地区が37%増、西部地区が28%増、県全体では32%増、年間生産量は、東部地区が40%増、西部地区が29%増、県全体では34%増となり、この結果年度末在庫量の前年同期比は、東部地区19%減、西部地区15%増、県全体で12%減であった。

石川県

記事提供：石川県骨材協同組合連合会

石川県における平成30年度1～3月期の骨材(県内産)の需給状況について、本年は昨年の記録的な豪雪から一転して暖冬に恵まれたことから、各骨材の加賀・能登地区ともに前年度比で増加となり、また加賀の南加賀地区の北陸新幹線関連需要が引き続き好調を維持していることから、県計全体の出荷量は前年同期と比べて21%の大幅な増加となり、9期連続の増加となった。また平成30年度の県計全体における出荷の年間通期累計も前年度比で18%の増加となった。

1～3月期の地区別の出荷量の比較では、加賀地区は前年同期と比べて、陸砂利・川砂利が26%の増加となり、同地区の山碎石も9%の増加となったことから、総じて加賀地区の出荷量は21%の増加となった。また能登地区は、量的に少ないながらも前年同期比で33%の増加となった。

その今期の出荷量の内訳を見ると、加賀地区の主要生産地である手取川扇状地産の陸砂利と川砂利については、その主要な需要先である生コン業者向けの出荷では、大口需要の金沢地区が低調だった前期から回復し、前年同期比で25%の増加となった。また好調が続いている南加賀地区は北陸新幹線関連工事により昨年度から更に出荷を伸ばし、前年同期比で31%の増加となった。しかしアスファルト合材業者向けの出荷は今年度初めてマイナスに転じる場所となり、今期は前年同期比で24%の減少となった。よって以上を合わせた今期の加賀地区における手取産陸砂利と川砂利の全体の出荷は、前年同期比で26%の増加となった。また平成30年度の加賀地区の手取産陸砂利と川砂利における出荷の年間通期累計も前年度比で16%の増加となった。

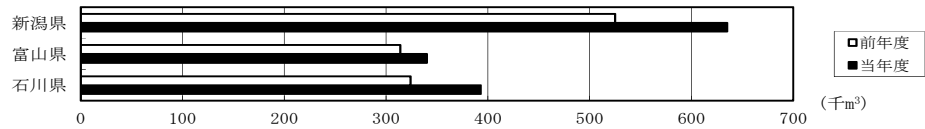
一方、路盤材を主体とする加賀地区の山碎石は、今期も増加基調を維持しており、前年同期比で9%の増加となった。なお平成30年度の年間通期累計でも25%の増加となった。

また能登地区の山碎石については、今期は前年同期比で33%の増加となったものの、やはり量的には県外からの流入材に押されて依然として少ない。また平成30年度の年間通期累計では何とか前年と同量の出荷を確保したものの、この地区の地場産業者の需要環境は、依然として厳しい状況が続いている。

生産量については、加賀・能登地区共に今期も概ね出荷量に合わせた生産体制をとっているため、県計では前年同期比で20%の増産となった。また生産量の平成30年度の県計全体における年間通期累計でも19%の増産となった。

在庫量は、加賀地区の陸砂利と川砂利の在庫が引き続きややひっ迫状態にあるものの、県計全体の前年同期比では1%の増加となった。

骨材出荷量の推移（１月～３月期）



(単位：千m³、%)

県	地 区	区 分	平成29年度 年 計	平成30年度				
				4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	累計
新潟県	上 越	出 荷 量	10 783	44 262	23 305	22 305	13 118	26 990
		生 産 量	5 746	39 271	23 305	27 304	47 94	31 974
		在 庫 量	▲18 173	▲18 183	▲18 183	▲15 182	▲ 9 157	▲ 9 157
	中 越	出 荷 量	▲ 4 1,062	▲ 4 266	▲10 306	14 352	28 171	3 1,095
		生 産 量	▲ 8 1,030	▲10 253	▲ 8 315	13 329	41 162	3 1,059
		在 庫 量	▲10 327	▲14 314	▲13 322	▲13 299	▲11 290	▲11 290
	下 越	出 荷 量	▲ 2 1,221	10 315	9 327	0 385	15 285	7 1,312
		生 産 量	▲ 7 1,202	11 365	15 342	11 361	24 311	15 1,379
		在 庫 量	▲ 3 684	▲ 1 733	1 749	6 724	10 750	10 750
	佐 渡	出 荷 量	▲ 2 201	33 60	26 67	14 73	56 61	30 261
		生 産 量	▲ 5 194	31 59	31 64	21 74	54 60	32 257
		在 庫 量	▲15 39	▲17 38	▲19 34	▲ 8 36	▲10 35	▲10 35
	県 計	出 荷 量	0 3,267	14 903	7 1,005	11 1,115	21 635	12 3,658
		生 産 量	▲ 4 3,172	12 948	9 1,026	17 1,068	34 627	16 3,669
		在 庫 量	▲ 7 1,223	▲ 8 1,268	▲ 6 1,288	▲ 3 1,241	1 1,232	1 1,232
富山県	東 部	出 荷 量	▲16 684	8 194	6 191	13 212	10 151	9 748
		生 産 量	▲15 646	8 193	14 206	22 189	▲ 2 130	11 718
		在 庫 量	▲20 160	▲20 160	▲13 174	▲ 9 151	▲19 130	▲ 19 130
	西 部	出 荷 量	▲ 6 840	0 197	▲ 2 220	1 244	7 189	1 850
		生 産 量	▲ 5 836	6 205	▲ 6 212	1 246	13 194	3 857
		在 庫 量	▲ 7 39	15 46	▲ 7 39	▲ 9 40	15 45	15 45
	県 計	出 荷 量	▲11 1,524	4 391	2 411	6 456	8 340	5 1,598
		生 産 量	▲ 9 1,482	7 398	3 418	9 435	7 324	6 1,575
		在 庫 量	▲17 199	▲14 206	▲12 213	▲ 9 191	▲12 175	▲ 12 175
石川県	加 賀	出 荷 量	20 1,465	27 431	17 447	11 472	21 385	18 1,735
		生 産 量	22 1,458	25 437	22 452	11 462	20 385	19 1,736
		在 庫 量	▲ 5 143	▲ 7 149	1 154	2 144	1 144	1 144
	能 登	出 荷 量	24 26	14 8	▲40 3	0 8	33 8	4 27
		生 産 量	17 28	14 8	▲33 4	0 8	14 8	0 28
		在 庫 量	25 10	25 10	22 11	22 11	10 11	10 11
	県 計	出 荷 量	21 1,491	27 439	17 450	10 480	21 393	18 1,762
		生 産 量	22 1,486	25 445	21 456	11 470	20 393	19 1,764
		在 庫 量	▲ 3 153	▲ 6 159	2 165	3 155	1 155	1 155

(注)・上段は前年同期との比較

・集計は、新潟県

会 員110社のうち110社

富山県

会 員86社のうち86社

非会員 1社のうち 1社

石川県

会 員21社のうち21社 (委託加工業者含む)

非会員16社のうち9社

(本データは、陸砂利・川砂利及び山砕石の数量である。)